



学 会 通 信

第 102 号

2022 年 5 月 20 日発行

## 目次

第 29 回日本教育メディア学会年次大会にあたってのご挨拶【第 1 報】	2
国際学会 ICoME 開催のご案内	4
2022 年度 第 1 回研究委員会 研究会のご案内	5
2021 年度 第 2 回研究委員会 研究会のご報告	6
『教育メディア研究』特集号「DX に向けた教育メディアの利活用」 募集と書評図書、図書紹介図書の推薦募集のお知らせ	7
第 10 期 第 2 回理事会（臨時）議事録	8
第 10 期 第 3 回理事会（定例）議事録	8
学会費納入のお願い、入会者・退会者	10
訃報	13
追悼と感謝 中野照海先生	14

---

## 第 29 回日本教育メディア学会年次大会にあたってのご挨拶【第 1 報】

---

### 第 29 回日本教育メディア学会年次大会にあたってのご挨拶【第 1 報】

年次大会実行委員長 亀井 美穂子（椋山女学園大学）

第 29 回日本教育メディア学会年次大会を、2022 年 11 月 26 日（土）、27 日（日）に椋山（すぎやま）女学園大学を会場とし、開催することになりました。

日本教育メディア学会は、2020 年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大に影響を受けてきましたが、年次大会、研究会ともに、オンライン開催で欠かさことなく開催されてきました。この間、オンラインでの研究発表や議論も活発に行われ、またオンラインでの運営ノウハウもより洗練されてきたことと存じます。

以前にも増して教育メディアは、初等教育から高等教育、また企業、地域や家庭など、認知され、活用され、研究されるようになっていきます。このような中で本年次大会では、より広範な領域、場面における教育メディア研究の成果を共有し、議論を通して、豊かな学びと社会を築ける場を、皆様とともに創りたいと存じます。

2020 年度に研究会会場予定だった椋山女学園大学ですが、今回の年次大会こそ、現地で開催し、対面で研究成果を共有したいと考えております。会場は、名古屋駅から地下鉄で約 30 分と比較的アクセスしやすい場所がございます。大会実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

#### 大会プログラム（予定）

1 日目 11 月 26 日（土）

午前：理事会

13:00－13:50 総会

14:00－14:50 大会企画

15:00－17:00 シンポジウム

17:30－19:30 懇親会（対面開催時）

2 日目 11 月 27 日（日）

09:30－11:30 一般研究発表（1）

11:30－12:30 昼食

12:30－14:30 課題研究

14:40－16:40 一般研究発表（2）

#### <大会企画>

「インフォーマルラーニングにおける ICT 利活用」

これまでも社会教育施設等や地域コミュニティの中で、ICT の利活用は進められてきましたが、コロナ

禍を経て、ICT の利活用はより幅広い年代により身近になってきている。インフォーマルラーニングを支援する ICT 活用の可能性、実践のデザインについて知見を共有し、議論したい。

#### <シンポジウム>

##### 「GIGA スクール構想における教育データの活用」

GIGA スクール構想でその活用が進む一人一台の情報端末。活用の情報共有から教育データの利活用にも発展している。そこで、情報教育に関連する企業により、これからの教育データの利活用について議論したい。

#### <課題研究>

##### 1) 映像コンテンツを活用した SDGs 教育

ウクライナ情勢をはじめ、グローバルな問題に関心が高まっている。社会の問題について関心をもったり、働きかけたりすることがますます重要になり、SDGs 教育への関心も高い。NHK for School などの映像コンテンツ、現地から発信される SNS などを通じた映像コンテンツは、社会のさまざまな問題を多角的に考えるきっかけとなりうる。そこで、映像コンテンツを活用してどのような SDGs 教育が実践できるのか、実践されているのか、課題は何かを議論したい。

##### 2) 児童生徒 1 人 1 台の情報端末の活用とメディア・リテラシーの実践

GIGA スクール構想に伴い、児童生徒 1 人 1 台の情報端末、高速インターネット、学習支援システムなどが学校現場に整備された。学習者が「意図をもって構成されたメディア」に主体的にアクセスして学ぶ機会は増えると考えられる。また、得られた情報や自分の考えについてメディアを通じて表現・発信して学ぶ機会も増加すると考える。さらに、家庭に端末を持ち帰り利用することを機に、家庭でのメディア・リテラシー育成のあり方も検討していく必要がある。こうした状況において求められるメディア・リテラシーに関する教育と実践について議論したい。

##### 3) GIGA スクール時代の情報活用能力

小学校・中学校そして高等学校においても 1 人 1 台端末及び高速大容量のネットワーク等が整備され、補正予算においては教師用端末の整備も進められることになった。そして学習指導要領は、各校種において、いよいよ全面実施となり、高等学校では情報 I が始まる。学習指導要領が要請する学びの探究化や STEAM 化において、情報活用能力は今まで以上に重要な役割を担うことになるのは明確である。しかしながら学校現場を概観すると、ICT 活用が未だ目的的となっている現状が見受けられる。こうした状況において、情報活用能力に関する教育や実践の在り方について広く議論したい。

##### 4) 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法への取り組み

これまでの教職科目「教育の方法及び技術」と関わって、新たに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の 1 単位以上の修得を求められたことについて、教員養成、教職課程を持つ大学では対応を求められた。この 2022 年 4 月より、皆さんはどのように対応されているのか、どのような内容や方法が工夫されているのかについて、情報の共有と研究知見の集積を学会として取り扱い議論したい。

---

## 国際学会 ICoME 開催のご案内

---

研究委員会（国際研究会 ICoME 担当）

ICoME（International Conference for Media in Education）第20回目はハワイ大学にて開催いたします。ICoMEは、日本教育メディア学会（JAEMS）、韓国教育情報メディア学会（KAEIM）、中国教育工学会（CAET）、アメリカ TCC（Teaching, Colleges & Community）の連携によって、開催される国際学会です。

ICoME2022は、オンラインでの開催となりました。コンカレントセッションの申込みは5月16日にて終了していますが、大学院生・学部生向けのラウンドテーブルセッションの申込みは5月25日まで可能です。ぜひ参加をご検討ください。

■日程：2022年8月3日（水）－4日（木）※米国ハワイ時間（GMT-10）

■場所：オンライン開催（ホスト：アメリカ・TCC（Teaching, Colleges & Community））

■ウェブサイト：<https://2022.icome.education/>

■スケジュール

2022年5月25日：コンカレントセッションでの発表者の概要提出期限（再々延長されました）

2022年5月25日：ラウンドテーブルセッションでの発表者の概要提出期日

2022年6月1日：コンカレントセッション・ラウンドテーブルセッションでの発表採否の通知

2022年6月30日：全ての発表セッションの原稿提出期日

2022年7月1日：参加申し込み締め切り

2022年8月3－4日：ICoME2022（オンライン開催、時間は米国時間）

■プレゼンテーションの種類

（1）コンカレントセッション（一般口頭発表）

研究者および実践者による一般口頭発表です。概要を提出いただき、発表の採否が決定されます。概要が採択された場合、4-8ページの原稿提出を予定しています。なお、ご提出いただいた原稿の中から優れたものを、*the International Journal for Educational Media and Technology* 掲載のために推薦させていただきます。

（2）ラウンドテーブルセッション（学部生・大学院生向け研究発表）

1つセッションにテーマが類似する複数の発表者がアサインされ、カジュアルな雰囲気での発表、ディスカッションを行います。概要を提出していただき、発表の採否が決定されます。概要が採択された場合、2ページの原稿提出を予定しています。優秀な発表に対し、*Young Scholar Award* が授与されます。学部生、大学院生の英語発表や海外の研究コミュニティ参加への機会となりますので、積極的に参加を推奨ください。

■参加費（予定）

オンライン開催になったことに伴い、現在改めて検討中です。確定次第、ICoME2022のウェブサイトにてお知らせいたします。

---

## 2022年度第1回研究委員会 研究会のご案内（現地開催予定）

---

テーマ「探究的な学びや主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の実現におけるメディアの活用／一般」

■日時：2022年7月10日(日)

■場所：東京学芸大学

■担当：東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 登本洋子

※コロナ禍の状況により、オンライン開催となる可能性があります。

高等学校では、2022年度から「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に名称が変更になり、「古典探究」「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「理数探究基礎」「理数探究」といった科目が新設されるなど、探究的な学習がより重視されるようになります。初等中等教育において、探究的な学びや主体的・対話的で深い学びが期待されていることも言うまでもありません。

こうした学びを実現するには、メディアをどのように学びに取り入れ、活用するかがますます重要になってきます。児童生徒のメディアそのものに対する理解も欠かせません。

そこで今回の研究会では「探究的な学びや主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の実現におけるメディアの活用」をテーマに発表を募集します。本テーマに関連した研究だけでなく、教育メディアに関する幅広い発表（一般）も歓迎いたします。

### ■開催方法

対面とZOOMによるハイブリットでの開催を予定。

3日前までに接続先を記載した開催案内を全発表者と参加者にお知らせします。

※発表申込の時点で発表形式について対面かオンラインの希望を伺います。

■発表申込締切：2022年5月31日(火)

■原稿提出締切：2022年6月20日(月)

■参加申込締切：2022年7月5日(火)

発表者と共同研究者は必ず参加申込を行ってください。発表者以外の方も参加申込も大歓迎です。日本教育メディア学会会員でなくとも発表・参加が可能です。

### ■参加費

無料

■参加・発表申込フォーム

<https://forms.gle/cBb4HnA8K2HFnufr8>

---

## 2021 年度 第 2 回研究委員会 研究会のご報告（オンライン開催）

---

テーマ「1人1台端末環境での新たな学びとメディアリテラシー／一般」

■日時：2022年2月27日（日）

■場所：オンライン開催

■担当：中村学園大学 山本朋弘

2022年2月27日(日)、今年度の第1回研究会が開催されました。今回も昨年度に引き続き、オンライン(Zoom)開催となりました。当日は、18件の研究発表、90名の参加者となりました。

全国の公立小中学校において、1人1台の情報端末やクラウド環境の整備が進み、授業で積極的に活用されるようになってきました。また、高等学校でも情報端末の整備が進むとともに、学習者用デジタル教科書の活用や、大学入学共通テストに教科「情報」が加わるなど、1人1台の端末環境に関連する学習環境の整備が進んでいます。

この1人1台の端末環境において、従来の教師主導の授業から、子供主体の学びへ移行するなど、新たな学びの姿が期待されます。一方で、教科等や授業の目標達成や児童生徒のメディアリテラシーの育成の観点から、その活用の在り方に改善が必要であることも考えられます。また、コロナ感染症拡大の状況で、オンライン授業や家庭学習での活用など、学びを止めないための実践が求められます。

このような状況において、1人1台の端末環境の有効活用に関する研究を多くの皆様にご報告いただき、今後の可能性を探っていくため、幅広く発表を募集しました。その結果、18件の研究報告があり、当日は90名の参加をいただきました。

午前中に9件、午後から9件のご発表をいただき、活発な質疑応答が行われました。1人1台の端末環境、クラウド環境の活用に関する授業デザインや実践に関する発表が行われました。今後期待される新たな学びの姿について、発表をもとに参加者と議論を深めることができました。また、関連する内容として、情報活用能力やプログラミング教育等をテーマとした研究発表が行われました。情報活用能力の要素やその評価、プログラミング教育での教材研究やワークショップ、スタディログやオンライン授業に関する実践研究など、多様な内容が発表されました。

年度末の多忙な時期に多くの研究発表をいただき、100名近い参加者となり、盛会に終えることができました。内容的にもとても充実した研究会となりました。



ご参加，ご発表いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。

文責：山本朋弘（中村学園大学教育学部）

---

## 『教育メディア研究』特集号「DXに向けた教育メディアの利活用」募集と 書評図書，図書紹介図書の推薦募集のお知らせ

---

編集委員会

(1) 『教育メディア研究』特集号「DXに向けた教育メディアの利活用」(Vol.29, No.2) 募集のご案内  
(2023年2月末発刊予定)

【締切 2022年8月15日(月)】

昨今，初等中等教育や高等教育における教育方法は大きな変革を迎えようとしています。小中学校においては，GIGAスクール構想により，これまで導入されてきた電子黒板や実物投影機などに加え，子どもたちが一人一台のタブレットPCを活用して学ぶ時代になりました。大学などの高等教育においては，オンライン授業を用いた学びが広がりました。タブレットPCなどのデバイスを学習者が活用することにより，これまでの授業では存在しなかった新しい形の子どもたち一人一人の実態に即した学びや，子どもたちが対話し，課題を追究する学びが生じています。このような新たな形の学びは，タブレットPCなどの教育メディアを一人一人が持ち，それらを効果的に活用することによって起こる変革(DX)の到来になると思われまます。このような変化は教育現場に留まらず，社会活動のDXへと波及することでしょう。

これらのことから，DXによりこれまで以上に学習者一人一人が主となる学びがさらに加速されていくと予測されます。そこで，本特集号ではこれらの背景を鑑み，DXに関して初等中等教育・高等教育・社会教育の様々な分野で行われている教育活動の設計・実践・評価についての研究を募集します。

1. 授業におけるICT活用，オンライン教育，クラウド活用，アクティブ・ラーニングなどにおける教育メディアを利活用した研究
2. デジタル教科書・デジタル教材などの教育メディアを利活用した研究
3. プログラミング・データサイエンスなどの情報活用能力やメディア・リテラシーに関する指導において教育メディアを利活用した研究

#### 4. 教員養成・教員研修及び社会での人材育成において教育メディアを利活用した研究

上記の例示にとらわれない新分野の研究や理論研究、実践研究、調査研究など様々なアプローチから、今後活かせる成果を期待します。

また、同時に一般論文も広く募集いたします。一般論文は随時受け付けています。多く会員からの投稿をお持ちしております。

##### (2) 書評図書、図書紹介図書の推薦の募集

学会員にとって有益な情報となる書評図書、図書紹介図書の推薦がありましたら、ご連絡ください。学会事務局に献本を頂いた場合は、優先的に検討をしたいと思います。

---

---

## 第 10 期 第 2 回理事会（臨時）議事録

---

[日 時] 2022 年 3 月 5 日（土）－3 月 12 日（土）

[場 所] 電子メールによる会議

[出席者] 会長，理事 18 名（25 名中）

### <審議事項>

#### (1) プライバシーポリシー公開について（事務局）

事務局より、プライバシーポリシー公開について提案がなされ、審議の結果、承認された。

以上

---

---

## 第 10 期 第 3 回理事会（定例）議事録

---

[日 時] 2022 年 4 月 23 日（土）13:00-15:00

[場 所] Zoom によるオンライン会議施

[出席者] 会長，理事 26 名，幹事 2 名

会長：中橋雄

理事：宇治橋祐之，村上正行，浅井和行，池尻良平，市川尚，稲垣忠，岩崎千晶，小柳和喜雄，亀井美穂子，岸磨貴子，黒上晴夫，後藤康志，小林祐紀，今野貴之，佐藤和紀，佐藤慎一，関戸康友，泰山裕，高橋純，寺嶋浩介，堀田龍也，堀田博史，中川一史，永田智子，山本良太，渡辺雄貴

監事：佐々木輝美，久保田賢一

事務局：高林友美

欠席：鈴木克明



<審議・報告事項>

(1) 理事の退任及び就任の件

中橋会長から、森田裕介理事の退任について提案があり、審議の結果承認された。

中橋会長から、亀井美穂子氏の理事就任について提案があり、審議の結果承認された。

(2) 入会者・退会者・除籍者について

事務局より資料に基づいて報告、原案通り承認された。

(3) 2021年度事業報告・2022年度事業計画について

資料に基づき、「2021年度事業報告・2022年度事業計画案」が示され、承認された。

(4) 2021年度決算報告・2022年度予算案について

事務局より資料に基づき、2021年度分から決算報告を新フォーマットで行うことが示された上で、「2021年度決算報告・2022年度予算案」が報告された。

佐々木監事と久保田監事から、監査の経緯と結果が報告された。

「2021年度決算報告・2022年度予算案」について、審議の結果承認された。

佐々木監事から、今後は対面ではなくデジタル上の書類で監査する方針について提案があり、審議の結果承認された。

(5) 学会 Web サーバーの移行について

事務局より資料に基づき、Web サーバーを移行することについて提案があり、審議の結果承認された。

(6) 年次大会委員会

資料に基づき、年次大会の開催形態、企画、課題研究、参加費、スケジュールが提案され、審議の結果承認された。

(7) 編集委員会（国内担当）

資料に基づき、編集委員会の国内ジャーナル担当の体制、新査読システムの運用を開始したこと、2022年度の論文誌の発行スケジュール、特集号のテーマが報告された。

また、書評図書・紹介図書の募集の方法と、図書購入の予算組み込みを含めて承認された。

(8) 編集委員会（国際担当）

資料に基づき、論文誌の発行状況、Open Journal System のクラウドサービス活用に向けたスケジュール、2022年度の計画が報告された。

(9) 研究委員会（国内担当）

資料に基づき、2022年度の体制、2022年度の研究会の活動計画と開催方法、予算が報告された。

(10) 研究委員会（国際担当）

資料に基づき、ICoME2022の準備状況、委員会予算が報告された。

またICoMEにおけるConcurrent Sessionのページ数の変更と投稿ルールの策定について提案があり、審議の結果承認された。

(11) 広報委員会

資料に基づき、Webサイトの一部修正、各委員会へのWeb更新権限付与の状況が報告された。

(12) 企画委員会

資料に基づき、2022年度の体制、2022年度の企画案が報告された。

(13) 日本教育メディア学会論文賞選考委員会

論文賞選考の今後のスケジュールが報告された。

(14) その他

中橋会長から、学会の重点課題として、ベテラン研究者と若手研究者が交流できる場の充実、研究倫理に関する意識を共有するための取り組み、学会の企画・運営に対する会員からの意見の募集の3つが報告された。

名誉会員の中野照海氏が逝去されたことについて宇治橋副会長から報告された。

・次回理事会開催について

11月25日（金）午後、椛山女学園大学にて開催予定。

以上

---

---

## 学会費納入のお願い、入会者・退会者

---

### ◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、会員システムからお手続きください。学会HPの「会員マイページ」よりアクセスいただくことが可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも、会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行  
種目：普通  
店番：418  
店名：四一八店（ヨンイチハチ店）  
口座番号：0865850  
名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガッカイ）

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は、下記記号番号をご利用ください。

記号：14160

番号：8658501

※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。

※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、**振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」**にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。

※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。

※ 学生会員は、会費納入に併せて年度ごとに学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。卒業・修了などにより学生会員の条件を満たさなくなった場合は事務局にメールでお知らせください。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、会員マイページにログインの上、登録情報の確認をよろしく願いいたします。

また、まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も、この機会にマイページ登録をお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

新入会員・正会員（4名）・・・久川 慶貴，吉村 聡志，富永 麻美，廣瀬 誠

新入会員・学生会員（3名）・・・守屋 久美子，橋本 泰介，河合 絢也

退会者・正会員（9名）・・・石塚 丈晴，市川 昌，林 一真，向後 千春，境 真理子，鄭 仁星，長島 利行，  
美濃 守隆，京谷 麻矢

退会者・学生会員（3名）・・・出田 貴大，谷口 生歩，山野井 優人

退会者・購読会員（1団体）・・・福山大学附属図書館

除籍者・正会員（2名）・・・斉藤 雄次，赤崎 公彦

除籍者・学生会員（1名）・・・宇都宮 大輝

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。会費の納入状況についてご不明な点がありましたら、事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。

-----  
第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

(1) 正会員，学生会員，団体会員ならびに購読会員が，会費を3年間滞納したとき，その年度末をもって除籍され，会員の資格を喪失する。

(2) 除籍された元会員が再入会するとき，滞納会費の納入を要する。

-----

会員総数 339名・16団体

名誉会員：1名\*

正会員：295名

学生会員：43名

団体会員：6団体

購読会員：7団体

(令和4年5月10日 現在)

\*現在学会誌を郵送中の名誉会員のみ。名誉会員総数は現在確認中です。

---

## 訃報

---

本学会の前史の学会から、多大なご支援とご指導をいただき、1997～2003年に会長を務められた中野照海（なかの てるみ）先生（国際基督教大学名誉教授、本学会名誉会員）がお亡くなりになりました。

○2022年3月2日ご逝去。享年90歳。

○家族のご意思で、葬儀・告別式は近親者で行われました。

安らかな眠りにつかれますよう心よりお祈り申し上げます。

---

## 追悼と感謝 中野照海先生

---

篠原 文陽児（正会員 東京学芸大学名誉教授）

敬愛する恩師、中野照海先生。令和4年3月2日(水)早朝、天に召された。90歳であった。

先生は、「視聴覚教育は、教育行為を最適にするために、画像メッセージと言語メッセージとの特質を明らかにし、これの具体化としての教授メディアの制作、選択、および利用を主たる課題とする教育理論・実践の分野である」とし、本学会の前身である協議会の時から今日まで、その発展に最も中心的な役割を果たされた。文学や芸術などにも造詣が深く、常に実例を踏まえた高い視座から社会と子供の変化を直視されておられた。特に、1970年代には、教育の現状を4点で示され、21世紀の教育課題も指摘されていた。前者には、子供中心の教育、基礎教育、教科におけるマルチメディア活用、エビデンスに基づく教育があり、2004年頃には、これにESDが加わる。一方、後者は、情意領域の学習である。学習の動機、意欲、探究、興味・関心、態度、好奇心、価値観がいかんして視覚イメージを刺激するか。そのメカニズムを解明することで、画像と言語の各メッセージが自己学習に与える影響を追究されておられた。そこには常に子供中心、学習者中心の思想があった。L.J.クロンバック等による適性処遇交互作用と、B.F.スキナーに代表される系統的教授法とC.ロジャースが提唱した非指示的カウンセリング法を組み合わせ最適化する教育と研究、研修の実践へのお導きが思い出される。

ちょっとした、それでいて重要な出来事、エピソードをひとつ。文部省助成事業による我が国初のハイパーメディア教材「文京文学館」の制作等を終えた2年後の1991年、教材「ハイパー・サイエンスキューブII」の開発に着手した時のこと。先生はハイパーメディアの特長に「無構造化」を指摘。これには、多くの専門家と称する方々から反論と疑念が噴出。コンピュータを基盤とする限り、無構造はあり得ないと。しかし、視聴覚教育の観点から学習のモデル化を試みたE.デールの経験の円錐。最上位は言語的象徴。先生は、言葉を大事にされていたはず。マルチメディアとマルチ・メディア、研究と運動それぞれの違いを論考にされておられる。また、こんなことも。篠原君はおかしい、「事務官の方々」と言う。こうした言葉の使い方に厳しさがある先生の「無構造化」。教授メディアを開発する側には構造がある。しかし、利用者側の子供あるいは学習者には、無構造の世界。学習者が思いのまま探索し、拾い上げた知識を組み合わせ構造化し、各自が特有の知識として創造するという教育観。社会や時代は変われども、変えてはならない教育と研究等の基礎・基本。肝に銘じ、心に刻んだ出来事であった。

大学院修士課程での授業「視聴覚教育原理」が、先生からご指導を受けた始まり。今年でちょうど50年。この間、視聴覚教育のみならず、映像によりイメージと教育内容を拡充する放送教育、そして、イノベーションを具体化する現場となったUNESCO、JICA、NHKとの協働による国際協力へのお導き。論理的な思考に加え、批判的な思考と想像を膨らませ創造する方略の糸口を与えていただく機会であった。いずれも、時は教育のシステム化が叫ばれていた真ただ中。しかし、今、この時でも、である。誤解を恐れずに一例をあげれば、新しい学習指導要領の目標の記述は、目標と評価は一体のものと考え、行動目標の記述を推進したB.S.ブルーム等のそれが大いに参考となっているに違いない。

変化の激しい今だからこそ、先生から、まだまだ深く広く学びたかった。お導きいただきたかった。

中野先生、何から何まで、本当に、ありがとうございます。神の御もとで安らかにお過ごしください。

**日本教育メディア学会 事務局**

〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1  
明星大学 教育学部 今野貴之 研究室内

E-mail : [office@jaems.jp](mailto:office@jaems.jp)

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

**広報委員会**

委員長 岩崎千晶 (関西大学)  
副委員長 永田智子 (兵庫教育大学)  
委員 井ノ上憲司 (大阪大学)  
尾崎拓郎 (大阪教育大学)  
高橋暁子 (千葉工業大学)  
多田泰紘 (京都橘大学)